



●音の美的感性の講演会一参加募集

美的感性研究会・東海支部共催講演会のご案内です。

牧先生のストラディバリウスの音響解析は、NHK スペシャルや『クラシック音楽館』などでも紹介されており、長田先生は音の研究や視覚系の研究はもちろんですが、化粧水の拭き取り触感や、アロマオイルや介護椅子、オフィスの快適性など五感全般を広く扱われています。五感情報から心が動かされる現象について考えてみます。

現地でも、遠隔地から Zoom でもご参加いただけます！

①名器と名演奏家の音の特徴と感動を生む脳
牧勝弘先生（愛知淑徳大学人間情報学部教授）

②感性工学におけるプロダクトデザインと美的感性

長田典子先生（関西学院大学工学部 教授）

【日時】12月9日（土）13～16時

【会場】名城大学・Zoom 併用

【参加費】学会員 1,000 円

非会員 2,000 円

【申込】12月4日（月）〆切

<https://color-science.jp/society/231209event/>
(川澄未来子)

●新刊紹介 赤の図鑑

書名：「理想の色に巡り会える・赤の図鑑」

発行：(株)三オブックス 文庫版 231 頁

監修：橋本実千代

監修協力：園田好江・三本由美子

発行：2023年12月1日 1,800円+税

今年の6月に出版された「青の図鑑」に次ぐ発行です。監修者の方々の才能と努力を高く評価したいと思います。

全体は、「あかいろ」「しぜん」「つくる」「ことば」の4章構成で、「青の図鑑」と同じです。

「あかいろ」は日本の赤：36色名。フランスの赤：36色名、世界の赤：48色名構成。

「しぜん」は、花や果物、鳥や昆虫、両棲類、魚などと、気象と風景や、宝石や貴石などの104の赤で構成されています。

「つくる」は、宗教建築、城廓、中世の都市景観、絵画、食器などの赤が見ものです。

「ことば」は、各国の赤の単語が新しい試み。熟語、季語、俳句、和歌、名言、小説、エッセイなども魅力的な教材になります。

最後に、「赤色一覧」として282色の赤関連の色票が添えられています。

次に出版される図鑑は何色だろうかと、期待が広がります。基本となる色名は、白、黒、黄、緑、紫などです。 (永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 45一か

画幅：がふく。絵画の軸物。画布。また、それぞれにかかれた絵。

賀茂川染・鴨川染：京染の総称。友禅染め的一种で、模様のやや大きいもの。

からあい：韓藍。ケイトウの古名。美しい藍色。

唐紙：中国から渡来した紙。「唐紙障子」の略。織り色の名。縦糸は白色、横糸は黄色。襲の色目の名。表は白色、裏は黄色のもの。

からぎぬ：唐衣。平安時代、十二単のいちばん上に着る丈の短い衣。

からくれない：唐紅・韓紅。舶来の紅の意。鮮やかな濃い紅の色。

からころも：唐衣・韓衣。唐風の衣服。袖が大きく、丈が長くて、上前・下前を深く合わせて着るもの。

烏の濡れ羽色：からすのぬればいろ。水に濡れた烏の羽のように黒くて、つやつやした色。

烏羽色：烏の羽の色。黒く青みのあるつややかな色。また、黒い色。からすば。

唐墨：からすみ。中国製の墨。とうぼく。

枯ら茶：染色で、黄色みをおびた茶色。

かりやす：刈安・青茅。イネ科の多年草。古くから黄色染料に使用。近江刈安。

刈安染め：カリヤスで染めた黄色。その染物。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)